

# 士会の対面講習会などの事業における感染対策

## 1.目的

大分県理学療法士協会（当会）が士会事業として対面講習会を実施するに当たり、士会の事業を担当する各局が感染予防対策を標準的に実施できることを目的に本ガイドを使用する

## 2.参加者の準備

- (1) 講習会参加に当たり、職場の許可を得る
- (2) 講習会開催日から1週間前の検温結果を保存しておく
- (3) 講習会参加時のマスクを準備しておく
- (4) 講習会当日に体調不良（発熱、咳、倦怠感など）の人は、参加しない

## 3.講師への確認事項

- (1) 講習会の内容を確認し、参加者同士が密になる可能性がある実技は動画で紹介してもらうなど代替方法が可能かを相談を行う  
もし、代替方法が難しいときには、参加者同士の呼気の流れなどに配慮しながら実技を行う（参考：日本理学療法士協会 COVID-19 理学療法実施の注意点）
- (2) 移動手段は可能な範囲で自家用車を利用してもらうが、公共交通機関を利用するときには移動時間を短くするなど感染リスクに配慮する

## 4.運営側の準備

- (1) 当日運営に携わる部員は職場の許可を得る（運営スタッフも体温チェック表を作成する）
- (2) 講習会開催日から3日前の検温結果を保存しておく
- (3) 講習会当日に使用する不織布のマスクを準備しておく
- (4) 講習会の受付名簿は連絡先がわかるようにしておく
- (5) 講習会参加者より新型コロナ陽性者が出た際には、当該事業の連絡先に連絡がもらえるよう事業案内並びに受付メール、研修会当日にアナウンスを行う
- (6) 部員が講習会当日に体調不良による欠席があることを想定して、余裕のある人員調整を行う
- (7) 部員用のマスク（非常時用）、手指消毒用のアルコール、体温計（非接触型）、清拭用アルコールクロスなどを準備する
- (7) 座席表を準備し、講習会当日の参加者の動きが把握できるようにする
- (8) 当日の運営スタッフ間でも可能な限り1mの距離を保てるよう、人員配置を行う
- (9) 講師と参加者の間隔は2m以上の間隔を保つこと
- (10) 講習会の参加受付時に参加者のメールアドレスを確認し、コロナ陽性者が確認できたら連絡が取れる準備をしておく
- (11) 事業を対面もしくはハイブリット形式で開催する際に、県外からの参加者希望者がいた際には、大分県理学療法士協会 事業開催の目安を参考して対応する

## 5.講習会の注意点

- (1) 講習会受付の返信メールにてマスクの着用や受付時の検温など当会が行う感染対策を記載し、余裕をもって受付できるよう周知しておく
- (2) 参加者には当日の検温、体調チェック表の基準に該当する際は受付を断る旨を連絡しておく

- (3) 講師についても当日検温を行い、講習会の当日責任者が確認をする
- (4) 講習会の定員は、会場の定員数の50%未満として、前後左右の座席間隔を1m以上確保する  
2部屋以上にわける際はZOOMなどの使用も検討する
- (5) 入退室の際には、参加者にアルコール手指消毒を行うように依頼する
- (6) 受付には飛沫予防用のアクリルボードなどを設置する（必要に応じてフェイスシールドの利用を検討する）
- (7) 受付前に手指消毒を行ってから受付を行い、入室許可時間になってから入室する  
受付で密集にならないよう時間差での受付を行うなど配慮する。  
（必要に応じて誘導係を配置すること）
- (8) 受付は1列に並んでもらい、前後を1mずつ空ける
- (9) 講習会開始前に、感染防止予防対策実施の協力依頼および講習会後に新型コロナ陽性が判明した際の連絡についてのアナウンスを行う
- (10) 換気については1時間に1～2回程度換気を行う  
使用する部屋に二酸化炭素濃度計がある際には、状況に応じて換気を行う  
換気時には部屋の対側の窓を開ける、換気扇を使用する、サーキュレーターなどでの強制換気を導入するなど、室内の換気がスムーズに行えるように配慮する
- (11) 共用する部分（ドアノブ、マイクなど）は定期的に清拭用アルコールクロスにて清掃する
- (12) 昼食を取る際には自家用車内で食べてもらうなど、感染予防に協力してもらう  
会場で食べる際には黙食を周知し、マスクを着用していない状況での会話を行わない
- (13) 講習会中に実演モデルが必要な場合には、あらかじめ調整を行い、本人の承諾を得ておく（講習会中に急に指名しないようにする）
- (14) 可能な限り資料は事前に参加者の席に置き、手渡しでの配布は控える
- (15) 会場内では大きな声を出さない（マスク着用下で日常会話レベルと隣人と話す範囲は可能）
- (16) 来場者の行動範囲は使用会場の運用規定を確認しておく（トイレの使用など）

## 6.当日参加を断る基準の目安

- (1) 受付時の検温で再測定をしても37.5℃以上（もしくは平熱+1度）の発熱者
- (2) 発熱はなくても、体調チェック表の体調不良やエピソードの欄に該当する人
- (3) 講習会受講中に体調が悪くなった人

## 7.感染者が発生した場合の対応の注意点（対応の詳細はフローを参照）

- (1) 受講者または当日運営スタッフに感染者が発生した場合
  - 1) 利用施設へ速やかに連絡する
  - 2) 感染者の人権には十分に配慮し、個人名が特定されないよう留意する
  - 3) 感染拡大防止を目的とした個人情報については、適切な取り扱いを行う
  - 4) 保健所などの聞き取りについては、局長と相談しながら必要な情報を提供する
- (2) 開催施設建物内で同時刻帯に接触した可能性がある方に感染者が発生した場合
  - 1) 共用部分（お手洗いなど）で接触の可能性もあるため、同講習会に参加していた受講者及び当日運営スタッフ全員に連絡する
  - 2) 開催施設に連絡を取り、必要な対応を確認し、情報共有を行う

## 参考資料

公民館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン：公益社団法人全国公民館連合会

新型コロナウイルス感染症 市民向け感染予防ハンドブック：東北医科薬科大学

新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針：厚生労働省（5/25更新）

対面授業受講にあたっての注意事項：大分大学

理学療法士のためのCOVID-19感染予防対策動画：日本理学療法学会

日本徒手理学療法学会技術講習会 注意事項について：日本徒手理学療法学会

COVID-19に対する徒手理学療法を行う際の留意点について：徒手理学療法部門

研修会事業開催における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン：日本理学療法士協会

理学療法士作業臨床実習指導者講会政府方針を踏まえた新型コロナウイルス感染症に対応するための開催形式について：日本理学療法士協会

更新：R2.10月

更新：R3.9月

更新：R4.8月

更新：R4.12月

# 小規模の出向者が現地で行う感染対策

## 1.目的

大分県理学療法士協会（当会）が外部団体などから会員の講師派遣などの依頼を受けるにあたり、出向者の感染予防対策の周知ならびに依頼主への対応の標準化を目的に本ガイドを使用する

## 2.依頼主に依頼する感染予防対策について

- (1) 当日の参加者の体調管理の依頼と参加者氏名と連絡先
- (2) 参加者のマスク着用（可能な限り不織布マスクを使用してもらうよう伝える）
  - 1) トレーナーサポートについては、大会運営側の指示に従うが、会員が対応しているときには極力マスクを付けてもらう
- (3) 換気可能かつ密集が避けられる部屋の準備
  - 1) 部屋の定員の50%を目安として、参加者と会場の調整を依頼する
- (4) 手指消毒用のアルコール製剤ならびに使用備品の消毒方法の確認
- (5) 座席設置などは身体的距離（1～2 m）を配慮する
- (6) 会場及び依頼団体がある市町村の感染状況についての情報収集

## 3.会員が出向するまでの準備

- (1) 職場からの出張許可（必要に応じて派遣依頼書を事務所から発送）を得る
- (2) 出向日を含む前後3日間の検温の記録
- (3) 体操指導などの際には、呼気が激しくならないような運動や指導への変更など内容の調整
- (4) 身体接触を伴う内容の依頼であれば、必要最低限にするか動画にて説明するなどを検討  
接触を伴う際には手袋の使用なども検討する
- (5) 依頼主側の感染対策ガイドなどあれば事前に確認しておく

## 4.当日の対応

- (1) 出向者の検温結果及び体調を依頼者および依頼団体へ報告
- (2) 依頼団体からの参加者及び参加者の体調の確認
  - 1) 受付時の当日参加者の検温、体調確認
  - 2) 当日の参加者の感染対策の広報
  - 3) トレーナーサポートなどの屋外活動かつ対応者の体調が把握しにくいケースは、運営者との調整を別途行う
- (3) 屋内活動の際には換気（1～2時間ごとに5～10分）の確認を依頼団体と行う
- (4) 講師と参加者の距離を適切に取れるかの会場レイアウトを検討する
- (5) トレーナーサポートなど対象者がマスクを使用できない際には、必要に応じてフェイスシールドを使用する

### 参考資料

公民館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン：公益社団法人全国公民館連合会

新型コロナウイルス感染症 市民向け感染予防ハンドブック：東北医科薬科大学

新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針：厚生労働省（5/25更新）

対面授業受講にあたっての注意事項：大分大学

更新：R2.10月

理学療法士のためのCOVID-19感染予防対策動画：日本理学療法学会

更新：R3.9月

日本徒手理学療法学会技術講習会 注意事項について：日本徒手理学療法学会

更新：R4.8月

COVID-19に対する徒手理学療法を行う際の留意点について：徒手理学療法部門

更新：R4.12月

# 体調チェック表

本日の講習会参加にあたり、新型コロナウイルスの感染拡大予防として、参加者に下記の事項についてご回答をお願いしております。ご理解・ご協力の程よろしくお願い致します。

## ①講習会参加時の注意点

講習会を受講するにあたり、下記の内容をお読みいただき、該当するものに○を付けてください。講習会当日の朝にご自宅で記載して頂いたものを、受付に提出ください。

講習会受講後に新型コロナウイルス陽性が判明した際には、保健所に講習会に参加したことを伝えていただき、講習会の参加者に影響があるかを確認してください。その内容を、講習会の問合せ担当者までご連絡いただきますようお願い致します。

また、感染が発生した場合の参加者への確実な連絡と保健所による調査への協力をお願いすることがあります。予めご了承ください。

## ②確認内容

氏名 \_\_\_\_\_ 年齢 \_\_\_\_\_ 歳 当日朝の検温 \_\_\_\_\_ °C  
(自宅で測定)

住所 \_\_\_\_\_ 県 \_\_\_\_\_ 市

連絡先（携帯可） \_\_\_\_\_

(参加許可)

●本日は下記の内容を職場に確認した上で参加許可を得ております はい いいえ

注意点 講習会参加者よりコロナ陽性者が確認された際には、参加者には速やかに連絡致します  
研修会参加時に新型コロナに感染および濃厚接触者に同定された際には、それに関する弁証などは致しかねますので、あらかじめ職場に承諾いただいた上で参加許可を得るようにしてください

(当日の主観的症状)

●風邪症状	なし	あり	症状：	咳	痰	咽頭痛	鼻汁	頭痛
●呼吸困難感	なし	あり						
●強い倦怠感	なし	あり						
●呼吸器症状	なし	あり	喘鳴	胸部痛	息上がり（安静時）			
●味覚や嗅覚の異常	なし	あり						

(エピソード)

●同居者に感染者がいるもしくは自身が濃厚接触者と言われている ある ない

**主観的症状およびエピソードにチェックがついた人は、講習会に参加することはできません**

体温は受付で37.5度（あるいは平熱+1度）以上あった際に、講習会の参加をお断りすることがありますので、ご了承ください。

上記の記載に相違はございません

施設名 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

(公社) 大分県理学療法士協会

更新：R 4 年12月

# 研修会参加者より新型コロナウイルス陽性者が発生した際の対応フロー

研修会参加者より新型コロナウイルス陽性者が発生した際に、下記の流れで対応を行う

参加者もしくは参加者の職場のスタッフより  
新型コロナ陽性になった連絡を受ける  
(発症日から遡り、2日以内に事業に参加しているとき)



参加者に研修会当日の行動状況(参加者の近隣に座った人、講習会の状況など)を保健所に伝えてもらい、濃厚接触者に該当するか確認を依頼する。  
並行して使用した施設および局長に報告し、局長より三役および理事に状況報告を行う

該当あり



## 【濃厚接触者】

座席表をもとに、陽性者の前後左右に座っていた参加者に連絡を行う(保健所の判断の下で濃厚接触者の該当となったことを伝える。以降の対応は保健所と職場に判断をしてもらう)

## 【それ以外の参加者】

コロナ陽性者が確認されたことと保健所の指示で濃厚接触者には個別に連絡をしていることを伝える  
体調不良者がいれば、職場に申し出をってもらうことと担当者に連絡を行ってもらう

該当なし



部員・参加者全員に新型コロナ陽性者が確認されたことをメール連絡で伝える(保健所の判断で、濃厚接触者がいないことを伝える)



事業執行の部長より最終的な状況を取りまとめ、使用した施設および局長に報告し、局長より、最終的な状況を三役および理事に状況を報告する